

事務事業名	落合保育所保育活動費		所属部局	保健福祉部		単位番号	5166		
			所属課室	落合保育所		課長名	有泉 久		
	☐ 実施計画事業		所属担当			担当者名	有泉 久		
基本政策	基本計画	IV 快適で心のかよいあう都市づくり	予算科目	会計	名称	款	項	目	
政策	計画	17 社会福祉の充実	事業区分	01	一般	03	02	04	
施策	体系	28 児童福祉の充実		☐ 国の制度による義務的事業	☐ 施設等維持管理事業	☐ 県の制度による義務的事業	☐ 補助金交付事業	☐ 市の制度による義務的事業	☒ その他の事業
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 年度) 期間限定複数年度 (年度)			法令根拠	児童福祉法				
事業の内容・期間限定複数年度事業は次年度以降3年間の計画内容も記載 保育所の安全な運営を行う 保育時間: 午前7時30分～午後7時00分(月曜日～金曜日) 午前8時30分～午後12時30分(土曜日) 日曜日・祭日は休所 定員:90人 入所児童:38人	事業費の主な内訳 (22年度)			項目(細節) 金額(千円) 項目(細節) 金額(千円)					
	報償費 196			使用料及び賃借料 7					
	旅費 7			備品購入費 141					
	需用費 4,353			研修等負担金 28					
	役務費 189			計 4,921					

1 現状把握(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 活動	22年度活動実績	保育計画を作成し職員が共通理解の上、子どもの自発性を大切にしながらの発達に応じた保育活動を行う。
	23年度活動予定	南アルプス市の保育目標を達成するために子どもの生活リズムを大切に一人一人の発達過程に応じた保育活動を行う。
② 対象(この事務事業は誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等		
①満1歳から就学前までの保育に欠ける児童 ②保護者		
③ 意図(この事務事業により対象をどのような状態にしていけるのか、どのように変えるのか)		
①良好な保育環境で、入所児童の心身の健全な発達を図るための保育を受ける。 ②保育に欠ける保護者が安心して就労等できる。		
④ 上位目的(どのような結果に結び付けるのか)		
住民が安心して子育てが出来るまちづくりを目指す。		

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 予算額	円
イ		
ウ		
⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 在所児童数	人
イ	保護者数	人
ウ		
⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 入所児童数	人
イ	卒園児童数	人
ウ		
⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない	名称	単位
⇒	ア 保育所に対する苦情の件数	件
イ		

(2) 事業費・指標の推移				単位	21年度 (決算・実績)	22年度 (決算見込・実績)	23年度 (予算・目標)	24年度 (次年度計画・目標)	25年度 (計画・目標)	26年度 (計画・目標)	最終 年度 (トータルコスト・目標)
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円							
			県支出金	千円							
			地方債	千円							
			その他	千円							
			一般財源	千円	7,987	4,921	3,898	4,012	4,012	4,012	
	事業費計 (A)		千円	7,987	4,921	3,898	4,012	4,012	4,012	0	
	人件費	正規職員従事人数	人	5	4	3	3	3	3		
		延べ業務時間	時間	1,952	1,952	1,952	1,952	1,952	1,952		
		人件費計 (B)	千円	8,708	8,708	7,734	7,734	7,734	7,734	0	
		(A)+(B)		千円	16,695	13,629	11,632	11,746	11,746	11,746	0
活動指標		アイ	円	7,987.0	4,921.0	3,898.0	4,012.0	4,012.0	4,012.0		
		ウ									
対象指標		アイ	人	55.0	51.0	38.0					
		ウ	人	47.0	43.0	32.0					
成果指標		アイ	人	55.0	52.0	38.0					
		ウ	人	15.0	18.0	10.0					
上位成果指標		アイ	件	0.0	2.0	0.0					
		ウ									

(3) この事務事業を取り巻く状況(対象者・社会状況等)の変化、市民意見等

① この事務事業はいつ頃どんな経緯で開始されたのか?	昭和28年4月町立落合保育園として開園した。
② 事務事業を取り巻く状況は開始時または5年前と比べてどう変化しているか? また、今後の予測は?	女性の社会進出が日常化し雇用の形態も多様化し少子化が進んでいるため、ここ数年児童の減少が続いている。
③ 事務事業に対して関係者(市民、事業対象者、議会等)からどんな意見・要望が寄せられているか?	

(4) 改革改善の取り組み状況

① 改革改善の取り組み実施は?	☐ 取り組みしている ⇒【内容!】 ☒ 取り組みしていない ⇒【理由!】
② これまでの改革改善の取り組み状況・経過(取り組みしていない場合はその理由)	・小規模の保育所の特色を生かした保育を推進している。
③ H 22年度に実施した改革改善の内容	・土曜日に楽しい親子のふれあいの時間を過ごしてもらうための行事を実施する。(親子レク)

事務事業名	落合保育所保育活動費	所属部	保健福祉部	所属課	落合保育所
-------	------------	-----	-------	-----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価(複数年度事業は途中評価)

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系の施策に結びつき、貢献しているか？ 意図が上位目的に結びついているか？	☐ 結びついていない(見直し余地がある) ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由↓】 ・子育てを支援する重要な事業であるため市の政策体系の施策に結びついている。
	②公共関与の妥当性 この事務事業を税金を投入して市が行わなければならないのか？ 民間やNPOに委ねることは可能か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由↓】 ・保育所の統廃合や民間委託することでコストの削減が図られる。今後の入所児童の現状を踏まえ保護者のニーズに応える。
	③維持・継続の妥当性 現状の対象と意図、成果から考えて、この事務事業を将来にわたり、維持・継続していくことは妥当か？目的や事業の必要性を見直す余地はあるか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 適切である ⇒【理由↓】 ・職員と入所児童の数に応じての保育活動費であるため適切である。
有効性 評価	④成果の向上余地 事務事業のやり方・進め方を変えることで成果を向上させることはできるか？できない場合は何が原因でできないのか？	☐ 向上余地がある ⇒【理由↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由↓】 ・少数の職員で厳しい状況ではあるが、現状の長時間保育及び低年齢化保育並びに障害児保育等の特別保育を行うことで保護者のニーズに応える。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 類似した目的を持つ事務事業が他にあるか？類似事務事業がある場合、その事務事業との統合や連携を図ることができるか？	☐ 類似事務事業がある ⇒(類似する事務事業の名称を記入↓) ☐ 統合・連携ができる ⇒【理由と具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☐ 統合・連携ができない ⇒【理由↓】 ☒ 類似事務事業がない
	⑥休止・廃止した時の影響及び休止・廃止の可能性 この事務事業を休止・廃止した場合影響はあるか？また成果から考えて、休止・廃止することはできるか？	☐ 影響なし ☒ 影響あり ⇒【理由と影響の内容↓】 ☐ 休止・廃止ができる ☒ 休止・廃止できない ⇒【理由↓】 ・保育の欠ける児童の受入施設のため児童とその保護者への支援が出来ない。 ・市町村に義務づけられている保育を実施する施設である
効率性 評価	⑦事業費の削減余地 成果を下げずに事業費(コスト)を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・保育所の統廃合や民間委託(指定管理者委託)することでコストの削減が図られる。
	⑧人件費の削減余地 成果を下げずに人件費を削減できないか？(事業のやり方の方の見直しによる業務時間の削減や臨時職員対応や外部委託による削減はできるか？)	☐ 削減余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由↓】 ・保育所の統廃合や民間委託(指定管理者委託)することでコストの削減が図られる。
公平性 評価	⑨受益機会・受益者負担の適正化余地 事務事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担を見直す必要はないか？公平公正か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由・具体案↓】 ⇒ 3評価(Check2)・4今後の方向性に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由↓】 ・入所児童に対しての保育活動事業のため公平公正である。

3 評価(Check2)担当課管理者による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 1次評価の総括(事務事業を実施した結果を振り返り気づいたこと、課題、今後の方向性等について)
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	児童福祉の充実のための保育活動にかかる最小限の経費である。小規模で少数職員の現状では厳しい状況ではあるが、保育所の特色を生かし、子どもたちの発達状況に応じた保育活動を行い保護者のニーズにほぼ応える。 今後、少子化による児童数の減少が見込まれる状況の中では、保育所の統廃合を検討していく必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事務事業の方向性(Check1の結果から定める)・・・複数選択可		(3) 改革・改善による方向性																						
☐ 廃止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 事業統合・連携(有効性⑤の結果) ☐ 公平性改善(公平性⑨の結果) ☐ 休止(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ 成果向上(有効性④の結果) ☒ 現状維持(全評価項目で適切) ☐ 必要性検討(目的妥当性①、②、③の結果) ☐ コスト削減(効率性⑦、⑧の結果)		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト水準</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果水準</th><th>向上</th><td>☐</td><td>☐</td><td>☐</td></tr><tr><th>維持</th><td>☐</td><td>☒</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td>☐</td><td></td><td></td></tr></table>				コスト水準			削減	維持	増加	成果水準	向上	☐	☐	☐	維持	☐	☒		低下	☐		
		コスト水準																						
		削減	維持	増加																				
成果水準	向上	☐	☐	☐																				
	維持	☐	☒																					
	低下	☐																						
(2) 改革改善案について		※ 廃止・休止の場合は記入不要																						
①今後の児童数の推移を踏まえ統合・民間委託(指定管理者制度)を検討する必要がある。		(5) 事務事業優先度評価結果																						
②		成果優先度評価結果	⑧																					
③		コスト削減優先度評価結果	⑥																					